

発 行:余市協会病院

発行日:平成 31 年 4 月 1 日

発行人:吉田 秀明

編集人:広報委員会

お問い合わせ:0135-23-3126

VOL.178 4月号

はつらつ Plus



「医療安全管理者 古川氏からの講義」



「多職種参加で真剣です」



「薬剤統括も真剣です」

2 月 7 日、11 日(出席者:197 名)

テーマ「転倒転落について」

65歳以上の人は年に3回転倒するというデータがあります。予測のつかない転倒転落による重大事故を予防しようという観点から、普段気に留めない院内施設を観察し、危険を察知する力をつけるという内容でした。みなさん真剣に考えて発表してくれました。参加型の研修のため、職員からは好評(?)でした。

こうした研修を企画・開催しながら、患者さんに安全な医療と療養環境を提供できるように研鑽していきたいと思います。

医療安全研修会を行いました



「看護部長からの講義」



「受付前ロビーを会場に」



「感染対策チームとパネラー」

2 月 14 日(参加者:85 名)

テーマ「インフルエンザアウトブレイクを経験して」

年度末から猛威を振るったインフルエンザに対して、病院職員としてどのように対応していくかの講演と、パネルディスカッションを行いました。

入院中の方のご家族、後志管内の皆様には、面会制限やマスク着用・手洗いなどの遵守にご協力いただき、拡大を防げたことを感謝しております。

感染勉強会を行いました

研修医リレーコラム 108

「咽頭炎(いんとうえん)」

NTT 東日本札幌病院から来ました、研修医 2 年目の横山と申します。2/1 から 2/28 の一ヶ月間、いろいろな経験をさせていただき非常によい研修ができました。ありがとうございました。

今回は外来でよく診る「喉の痛み」の原因である『咽頭炎』についてご紹介します。

1.咽頭炎って？

咽頭(いんとう)とは口の奥のことで、鏡の前で口を大きく開けて「アー」と言ってみると観察できます。ここにばい菌がついて炎症を起こすのが『咽頭炎』で、大きく分けてウイルスによるものと細菌によるものがあります。

ウイルスによるものはいわゆる風邪の症状の一つで、「喉の痛み」の原因になります。細菌によるものは子供に多いですが、大人でもかかる可能性があります。

2.治療は？

原因がウイルスの場合、特別な治療は必要なく痛み止めなどで対応します。原因が細菌の場合は細菌をやっつける抗生物質による治療が必要です。

3.どうやって見分けるの？

一般的に、細菌性を疑うのは以下の場合とされています。

- ・咳がない
- ・喉の奥が赤く腫れている(白い滲出物がある)
- ・首の前側のリンパ節が腫れて痛い
- ・熱が 38℃ 以上
- ・年齢が若い



以上のうち2つ以上当てはまれば可能性あり、4 つ以上当てはまれば細菌性咽頭炎の可能性が高いと判断します。

4.気を付けることは？

細菌性咽頭炎は放置すると喉の奥に膿瘍(膿のかたまり)を作ってしまったたり、心臓の病気の原因になる危険性もあります。

特に子供で、強い喉の痛み・発熱があり、咳などの一般的な風邪症状が乏しい場合には、病院を受診して検査を受けることをお勧めします。

大人の場合は細菌性の頻度は低いですが、上の項目が多く当てはまるようであれば受診するのがよいでしょう。

つばも飲めないような激しい喉の痛みと声がれ(こもったような声)がある場合、窒息の危険がある別の疾患かも知れませんので直ちに病院を受診してください(その場合耳鼻科医のいる病院が望ましいです)。

NTT 東日本札幌病院 研修医 横山慶人



救急件数 (2月)

外来受診242件 うち入院33件
救急車来院80件 うち入院31件